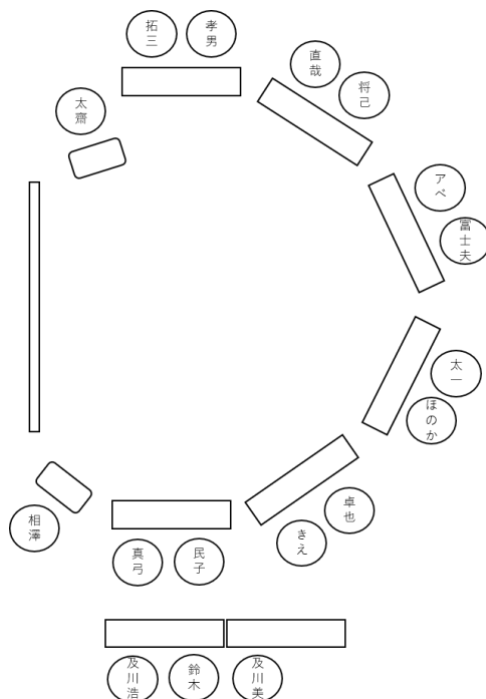


## 第1回志津川湾保全・活用計画策定委員会

日時：令和3年6月2日(水)14:00~16:00

会場：南三陸町自然環境活用センター交流室



### □委員・事務局紹介

南三陸町自然環境活用センター及川主任より挨拶・委員と事務局紹介

### □趣旨説明

事務局太齋より趣旨説明

### □会長・副会長の選出

委員の互選により以下に決定

会長 阿部富士夫委員

副会長 工藤真弓委員

## 1 志津川湾保全・活用計画の内容について

### ○事務局より目次案の説明

- ・委員から異論がなかったため、案に沿って進める。
- ・随時意見を取り込み、修正していく。

## 2 志津川湾の特徴について

○今回検討する範囲はラムサール条約指定の湿地の範囲とするのか、それ以外も含めた範囲とするのかとの質問が出た。ラムサール条約指定湿地は干潟等の多様性が高い場所

が外れているが、今後の志津川湾のことを考えるのであれば対象とした方がよいのではとの意見があり、陸域も含めて今後議論して決めていく必要があるとの認識で合意。

○あなたにとっての志津川湾とは？

※各委員からそれぞれのイメージを発表して頂いた。

- ・多様な生き方やあり方を考えられる場所
- ・暖流・寒流・対馬海流が交じり合って、多様な生き物が生まれたり見られたりする。それによって人の多様な生き方・あり方を考えられる。
- ・実際に養殖をしているので、海のめぐみをいただいているところ
- ・ビジュアル的にも観光の素材として、南三陸＝志津川湾というイメージはパンフレット等には欠かせない
- ・牡鹿半島から宮古あたりまでのリアス式海岸の中で、志津川湾は特別多様性が高いとは限らないが、人口密度など、絶妙な距離感とバランスがある場所
- ・こども時代に歌津で潮干狩りをした覚えがある
- ・南三陸は分水嶺で囲まれていて、志津川湾は山の水分が集まって流れていく場所でもあり、やませで水分補給をしてくれる場でもある。
- ・水産物が多くあり、食材の宝庫
- ・子供時代に磯遊び、海水浴をした覚えがある
- ・まだ町民が気づいていない宝がたくさんある場所。
- ・「海なのに宝の山！」例えば、絶滅危惧種や沿岸の化石等、たくさんある。
- ・南三陸はリアス式海岸の中で、湾の奥に干潟がある、珍しい場所。
- ・仙台湾と比べても違いが多く、ジャムシ（ゴカイの仲間）が出てきたことはすごい。
- ・2017年に新種記載されたサンリクドロソコエビ（絶滅危惧Ⅰ類）が志津川湾でも確認されている。
- ・ダンゴウオ・クチバシカジカなど、珍しい生き物がいる志津川湾は自慢になる場所。世界に誇れる生き物がいる。「海なのに宝箱！」
- ・コクガンのように貴重な人・珍しい人が集まる場所。
- ・子どもが小さいとき、海を見せること・遊ばせることで海の不思議さを学ばせる場所だった。
- ・観光への理解・受け入れ態勢がある漁師が多い。調査等でも漁師の協力があると聞いている。協力してくれる漁師が多いことが調査が進んでいった要因。
- ・気仙沼湾等も宝箱があるはずだが、南三陸は宝箱を開けている。様々な人が調査する動きがあるからではないか。宝箱の宝を見ることができる・共有できる場所としても貴重な場所。
- ・南三陸はASC、FSC等の国際認証を取得していて、農業の方にも農薬を減らした米作りなどの動きがある。自分では、生態系等への影響も考えて栗の減農薬を考えてい

る。

- ・荒島・青島等の島がある。植生や宗教的にも意味のある島。ほかの地域よりも人とかかなり近い位置にあることを忘れたくない。
- ・震災から 10 年経ち、あの津波を見た人は海はとても怖い場所だと思っていると思う。震災前に過密養殖をしていた牡蠣棚は津波ですべて無くなり、戸倉は 1/3 に減らし再開した。これは志津川湾が研究者たちのフィールドであるからで、そのおかげで持続可能な漁業を検討できる。
- ・「リアル水族館」「海のテーマパーク」。釣りができ、イルカ・クジラ・カメも見られる。
- ・田束山から「宝箱」をすべて見渡せるコンパクトな場所。
- ・食材・環境・化石など、教材になるものが多い。
- ・志津川湾はとてもきれいな場所。干潟調査のときに感じる。きれいな場所だという認識を大切にしていく必要がある。きれいなものは汚したくなる。
- ・美しい場所。多種多様な生き物がいて、虹色に光るジャムシ、ダンゴウオ、クチバシカジカも美しい。
- ・川と周辺の田んぼも防潮堤の工事ですべて分断されてしまった。海だけでなく、陸や淡水の湿地等の周辺の環境も含めて保全していくことも必要。防潮堤建設でできた更地も湿地に戻す必要があるのでは。
- ・震災前の海岸線には非常に素晴らしい干潟があった。湧水もあり、アサリの幼生もたくさんいた。
- ・震災後堤防が壊れ、砂が集まり、アサリがたくさんいた。海とのつながりを残せば生き物は戻ってくるはず。しかし、工事ですべて無くなってしまった。
- ・海岸林の取り扱いをどうすればいいかわからない。伐採・搬出はあきらめている。台風や大雨、土砂崩れで海に流れていくこともある。山の方はゾーニングを進めているが、海は後回しになっている。
- ・だからといって岬をコンクリートで固めてしまうのは違う。
- ・材を置きっぱなしにできないので、広葉樹への促進もできない状況。
- ・八幡川に工事の廃材・三角コーンが流れていたりする。町から海洋プラ等が流れていく可能性もある。いいものも流れていくが、悪いものも流れていく。
- ・震災前は各河川に水門があったので直接ゴミが流れていかなかった。震災の影響で水門がなくなり、消防団もなくなった。だから流れてしまうこともある。
- ・海洋プラを食べている魚を食べているわたしたちもいる。
- ・南三陸の川は汚染を運んでこないきれいな川。川辺の湿地も海に役立っている。
- ・牡蠣のノロウイルスがすくないのはこのおかげ。生活排水がたくさん流れていかない。

### 3 住民向け WS の内容について

- ・ラムサール登録時には、漁業者から登録によって漁業に制約が出るのではとの意見が

あったが、実際に制約はなく、むしろワイズユースが重要。丁寧に説明すれば理解をしてもらえた。まだラムサールを理解している人が少ない。制約のあるワシントン条約のイメージがある。

- ・ラムサールブランドで商品売り出すこともできるが、ラムサールを知らない人が多い。子どもに理解してもらうことも必要。
- ・活用を促進するためのシール・WSなどを考える必要がある。FSC側からは海側とのコミュニケーションが必要ということもあり、WSをそれに使えないか。山の活動が海に悪い影響を及ぼしていないか・山側はどういう役目を担えるのかを考えるWSだと良い。
- ・FSCは50年、100年先を考えている。海は1年後もわからないという状態。山はすごい。
- ・国は流域保全を進めている。南三陸であれば湾も含めて保全していく必要がある。
- ・ASC・FSC・ラムサールをすべて取っているのは南三陸だけ？世界初？それを町民が知らない。
- ・子ども向けはもちろん、先生向けのWSはどうか。SDGsについても学べる。教育委員会に働きかけ、単発でなく、定番メニューとして毎年やる仕組みづくりをする必要がある。先生向けの山から海までのツアーがあっても良い。
- ・海藻は多いが、実は磯焼けなどもあることが現実。藻場ビジョンを考えることも必要。

#### 4 今後の委員会開催日程について

○事務局からの提案として年5回を提示し、理解を得た。

○日程は月曜～木曜の14時～16時を基本とする。次回は7月19日で決定。

#### 5 その他

情報提供：発信器を付けたコクガンは国後島までへ行っても今は千島列島あたりまでいるはず。



